

次世代認証からのリクエスト

学認・次世代認証連携検討作業部会

佐藤周行

次世代認証連携検討作業部会

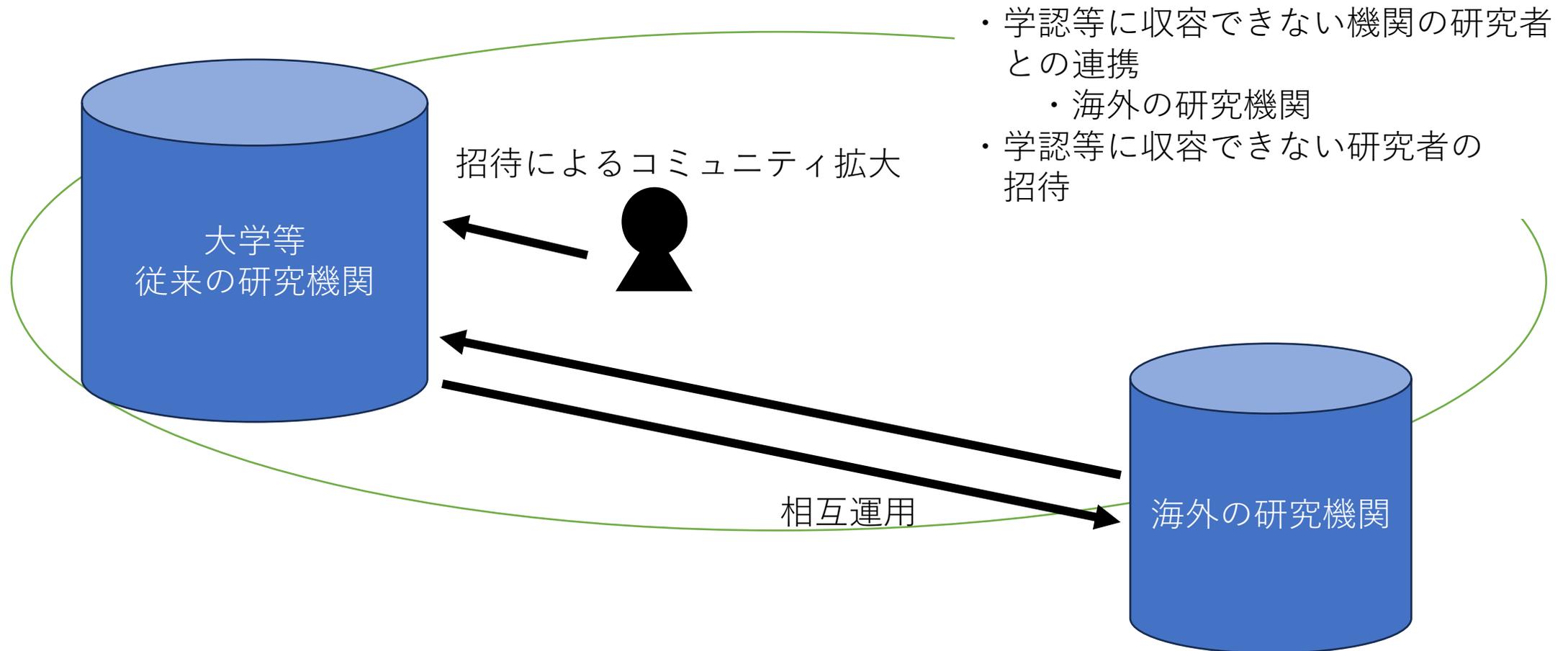
- 次世代認証連携検討作業部会から来ました
- 大学等研究機関（以下、「大学等」と言います）の認証連携基盤としての「学認」の保証度を上げるための制度的・技術的な検討をしています
- 実は、計算・データ等のリソースを提供する「サービス」も学認の大切な参加者です
- 今回、大学等が認証の保証度を上げるための動機（の候補）をお話して、「リクエスト」に替えたいと思います

アイデンティティ

- 大学等は、自組織に属する人たちのアイデンティティを保証します
 - Identifier
 - 各種属性（教員/学生の身分、所属部署、決済保証等）
- サービス側は、組織の信頼度と組織が保証する属性の保証度を評価したうえで認可を与えます

⇒そこで、より広くより深くサービスを展開するには？

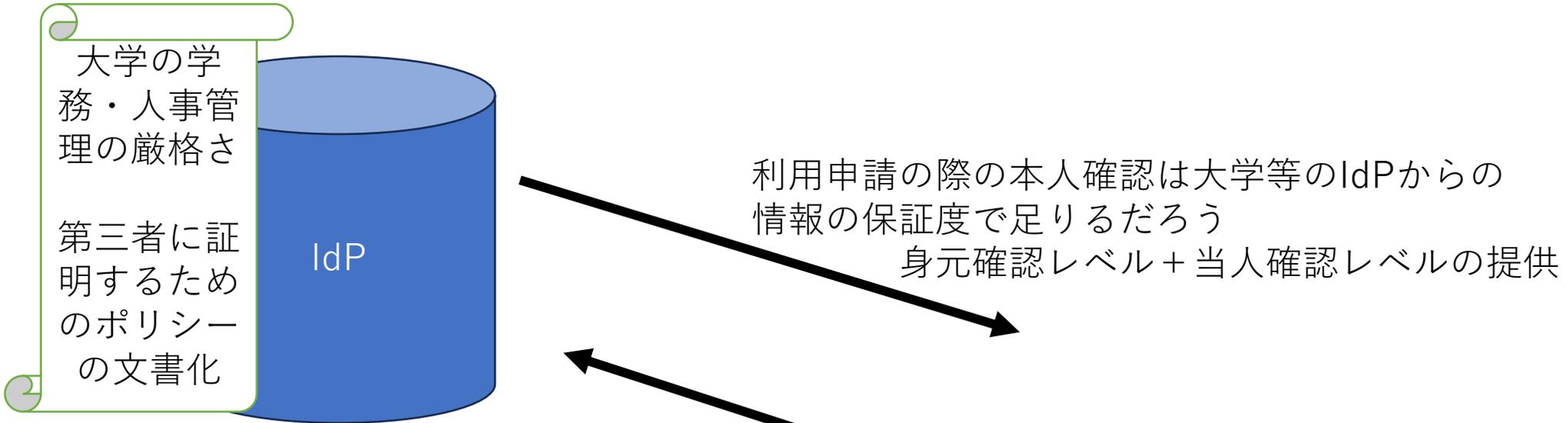
利用者層の拡大: より広く



アイデンティティ：より広く

- より広い層の利用者を収容することが必要
 - 安定して運用されている大学のアイデンティティ基盤が多数存在
 - そこから外れる組織に属している人たちにどのように基盤を提供すべきか
 - Orphan Identityとして、昔から問題になっていた
 - 現在ある基盤との相互運用性が一つの解
 - 相手の信頼度を評価（する|できる）ことが鍵
 - たとえば、Invitation制度はどのくらいの信頼度を持つのか？
 - たとえば、IDaaS(ホスティング)の評価のためのTrusted DBの運用はどうか
 - この点を考えたい
 - アイデンティティ（IAL）のリスク評価に自明でない問題を持ち込んでいる
 - 共同利用機関を抱えている組織が常に苦勞していることは認識しています
 - 信頼度（保証度）を適切に評価したうえでの収容アイデンティティの拡大を検討していただけないでしょうか

より深く



利用に際して利用者の厳格な確認が法令で要求されている。大学等から発出されるデータは信頼に足るものなのか？
身元確認レベル+当人確認レベルの要求



アイデンティティ：より深く

- 登録の完全オンライン化で、より貴重なリソースにアクセスできるように
 - IALとAALのリスク評価が必須
 - リスク評価の技術、成熟しているかなあ
 - サービス提供側が納得するレベルを提供できるか
 - 「安定して運用されている大学のアイデンティティ基盤が多数存在」
 - 何をすれば、相手は信頼してくれるか？
 - ポリシーの策定と文書化
 - 監査を含めた信頼の担保の体制
 - 各アイデンティティ基盤は、「リスク評価」「相手の信頼を得る手段」の意味から点検をしてくれるとうれしい
 - レベルを認定する側からのお願い